

太平洋イカ類漁場開発調査

(開運丸・アカイカ漁場調査, 東奥丸・イカ類漁場調査)

○中田 凱久・涌坪 敏明・兜森 良則
田村 真通・天野 勝三

発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅸ(昭和59年3月)及び昭和58年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集

抄 録

昭和58年6～10月の期間において, 試験船開運丸(調査海域北緯 $38^{\circ}-14'$ ～ $43^{\circ}-23'$, 東経 $142^{\circ}-56'$ ～ $160^{\circ}-58'$)及び東奥丸(北緯 $39^{\circ}-41'$ ～ $42^{\circ}-30'$, 東経 $141^{\circ}-29'$ ～ $153^{\circ}-52'$)によってスルメイカ, アカイカ等の漁場環境, イカ類分布の状況及び群の生物的特性等について調査を行った。

1. スルメイカ及びアカイカ漁場における環境特性

東経 143° ～ 160° の海域内の7, 8月の表面水温 15°C と 20°C 等温線の分布は56, 57年に比べ南偏し, 特に 155°E 以東海域でそれが顕著であったが, 9月以降例年並となった。

なお, スルメイカ漁場が形成される津軽暖流域では, 東方への張り出し及び水温がほぼ平年並であった。

2. スルメイカ, アカイカの分布

(1) 延109回の漁獲試験により, スルメイカ836尾及びアカイカ82,620尾が釣獲されたが, スルメイカの分布は57年を上回っていた。

(2) アカイカの分布の重心は 147°E , 154°E を中心とした海域にみられたが, C P U Eで57年と比較するとほとんどの時期で下回っていた。

3. アカイカ来遊群の性状

魚体の特徴として57年に比べ, 漁期当初から8月までは大型が出現したが, 8月以降急激に小型化していた。

4. アカイカ来遊資源量水準

58年の青森県におけるアカイカ水揚量は17,400トンで, 前年(27,000トン)を大幅に下回り, 漁獲努力量の減少等を考慮しても, 来遊資源量水準は57年をやや下回る低い水準であったと推定される。